

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
設置者名	学校法人和風会（理事長）石田信彦

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程	作業療法学科（3年制）	夜・通信	92 単位	12 単位	
	理学療法学科（3年制）	夜・通信	116 単位	8 単位	
社会福祉専門課程	介護福祉学科（2年制）	夜・通信	92 単位	9 単位	
		夜・通信			
（備考）					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにてカリキュラム公開 作業療法学科 https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/subjects_ot_2026.pdf 理学療法学科 https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/subjects_pt_2026.pdf 介護福祉学科 https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/subjects_cw_2026.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
設置者名	学校法人和風会（理事長）石田信彦

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公表 https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/executive_director2026-2.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現 東京都作業療法士会 会長	2023.4.1 ～ 2027.3.31	東京都全体の作業療法士 を束ねる立場から今後の学 校運営及び作業療法士の 方向性を指南
非常勤	現 数泰工業(株) 代表取締役 社長	2023.4.1～ 2027.3.31	地域の経済・政治的支援 今後の学校運営の側面を 指南
非常勤	現 明晴グループ 新日本学院 理事長	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	地域の老舗日本語学校で 5つのグループの代表を されており、本学の介護福 祉学科はじめとする外国 人留学生の日本語教育機 関としての見識、ご意見役 である。
非常勤	現 社会福祉法人サンライズ ゼネラルマネージャー	2025. 4. 1～ 2027. 3. 31	地域の老舗社会福祉法人 であるサンライズの重職 をされており、本学の介護 福祉学科での外国人留學 生のサポーター法人とし て地域の社会福祉法人の 代表としての見識、ご意見 役である。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
設置者名	学校法人和風会（理事長）石田信彦

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (作業療法学科(3年制)、理学療法学科(3年制)、言語聴覚学科(2年制)、介護福祉学科(2年制)) 【授業計画(シラバス)の作成過程】 10月:次年度の年間スケジュール作成。 10月:教務部長から事務所へ依頼書類の指示。 11月:各学科長、主任で次年度のカリキュラムと講師の確認。 11月:事務所にて非常勤講師へ依頼を作成し、教務部長に確認を取る。 12月:非常勤講師への依頼の最終確認。①公文書・依頼文、②年間スケジュール、③講義希望伺い、④シラバス依頼・原本記入例・前年度シラバス 12月:非常勤講師への依頼の発送(第3金曜日) 1月:各学科長から専任教員へシラバスの作成依頼 2月:シラバスの回収(第2金曜日)と作成(確認、調整、入稿) 【授業計画作成・公表時期】 授業計画作成時期:12月～2月下旬 公表時期:4月	
授業計画書の公表方法	シラバスは、年度初めのガイダンスにおいて全ての学生に配布し、ホームページにも掲載している。 作業療法学科シラバス： https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/syllabus/syllabus_ot_2026.pdf 理学療法学科シラバス： https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/syllabus/syllabus_pt_2026.pdf 言語聴覚学科シラバス： https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/syllabus/syllabus_st_2026.pdf 介護福祉学科シラバス： https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/syllabus/syllabus_cw_2026.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則において「単位の認定及び成績評価」、履修細則において「学習の評価」を規定している。シラバスに記載している授業科目の試験方法により成績評価を行っている。 (参考) 学則 第 27 条(単位の認定及び成績評価)授業科目の単位の認定は、講義については学力考査及び平素の学習成績により行い、実習については実習報告及び平素の実習成績に基づき総合評価して合格した者に与える。 2 成績評価は、100 点満点として 90 点以上を S、89 点から 80 点を A、79 点から 70 点を B、69 点から 60 点を C、59 点以下を D とし、S、A、B 及び C を合格とし、D を不合格とする。また、単位認定された科目を N とする。 3 学則に定める授業科目の時間数の 3 分の 2 以上の出席がない場合には、定期試験の受験資格を失い単位の認定をしない。 4 臨床実習は学則に定める時間数の 5 分の 4 以上の出席がない場合には、単位の認定をしない。 履修細則 第 7 条(学習の評価)学力考査は、各授業科目とも 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。 2 各授業科目についての学生に対する評価は、100 点満点とし、60 点以上を合格とし、単位を修得する。 3 再試験を受けた者は、その結果が 60 点以上であっても 60 点を満点として評価する。 4 実習については実習報告及び平素の実習成績に基づき、実習指導者と当該学科専任教員が総括的に評価する。	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 1・2 年生の成績評価は、100 点満点として 90 点以上を S、89 点から 80 点を A、79 点から 70 点を B、69 点から 60 点を C、59 点以下を D とし、S、A、B 及び C を合格とし、D を不合格としている。3 年生の成績評価は、100 点満点として 80 点以上を A、79 点から 70 点を B、69 点から 60 点を C、59 点以下を D とし、A、B 及び C を合格とし、D を不合格としている。 学業成績は、授業科目ごとに行う試験やレポート(100 点満点に換算)によって評価される。 学業成績を総合的に判断する客観的指標として、1・2 年生は、グレート・ポイント・アベレージ(履修科目の成績の平均値をいう。以下「GPA」という。)を算出する。3 年生は、該当学年で履修した全ての科目の平均点を算出している。当校では、学科での履修指導、学生生活支援、就職活動支援、成績優秀者の表彰等に活用している。 成績評価方法については、学則を HP で公開するほか、入学時オリエンテーションや在校生ガイダンスで学生に通知している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	掲載 https://www.tama-riha.ac.jp/information/info.html II. 成績評価・卒業認定方針

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学則において「卒業認定」、履修細則において「進級及び卒業の認定」を規定している。各学科の教育課程に定められているすべての科目について、単位を認定された者が各学科の教員会議にて協議され、学院長が決定している。 当校では、各学科でディプロマポリシー(卒業までに身につけるべき能力)を策定し、公表している。 (参考) 学則 第 29 条(卒業認定)作業療法学科、理学療法学科は 3 年以上在学、言語聴覚学科は 2 年以上在学し、第 27 条による単位認定された者について、教員会議の議を経て学院長が卒業を認定する。 履修細則 第 9 条(進級及び卒業の認定)進級及び卒業の認定は、教員会議の議を経て学院長が認定する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	掲載 https://www.tama-riha.ac.jp/information/info.html II. 成績評価・卒業認定方針

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
設置者名	学校法人和風会（理事長）石田信彦

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_report/financial_report_2025.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_report/financial_report_2025.pdf
財産目録	https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_report/property_list_2025.pdf
事業報告書	https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_report/annual_report_2025.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_report/audit_report_2025.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療関係		医療専門課程	作業療法学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	128 単位	70 単位	34 単位	24 単位	単位	単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人		85 人	0 人	7 人	20 人	27 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準

(概要) 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
(概要) ・各学科 2 名の教員が、定期的、非定期的に全ての学生の面談を行っている。 ・学科の教員に相談できない精神的な問題や専門的に援助が必要な学生は、常勤のカウンセラー（臨床心理士）に相談できる体制を整え、面談の促しを行っている。 ・教室に用紙を設置、学生にも配布し、質問が出来なければ用紙にての質問も受け付けている。 ・教員室でも図書を閲覧できるようにし、学生からの質問にも対応している。 ・長期欠席者には、本人・父兄とメールや電話で連絡を取り、面接も行っている。 ・成績不良者には、必要に応じて個別指導、小テスト、面接などを行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
24 人 (100%)	0 人 (%)	24 人 (100%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 病院（身体障害）90%、病院（精神障害）7%、病院（小児）3%			
(就職指導内容) 就職ガイダンス実施（業種の状況説明、履歴書の書き方等）、マナー講座、就職説明会（感染症対策のため Web 説明会、クラスでの個別説明実施）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2025 年度作業療法士国家試験を 24 名が受験し、23 名が合格（合格率 96%）であった。			
(備考) （任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
88 人	10 人	11%
(中途退学の主な理由) 進路変更、一身上の理由など。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 二人担任制を取り入れ定期的な面談や非定期に短時間の面談を数多く行っている。 症例報告や自助具制作の発表会を行い、他学年との交流を図っている。 近隣や関連施設の卒業生を呼び作業療法士の仕事、やりがいを講義してもらっている。 授業の欠席が 3 回になると本人と面談し、保護者にも電話連絡を入れ、学校での様子や家庭での様子を情報交換している。 教員のメールアドレス開示、意見箱の設置、常勤の臨床心理士のカウンセリングもあり、学科教員以外にも相談できる環境がある。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療関係		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	122 単位	55 単位	39 単位	26 単位		2 単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		129 人	1 人	7 人	20 人	27 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照	
成績評価の基準・方法	
（概要） 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照	
学修支援等	
（概要） ・実技の科目においては、専任教員 4 名にて実施しています。 ・学科教員が、定期的に全ての学生の面談を行っている。 ・学科の教員に相談できない精神的な問題に対しては、常勤のカウンセラー（臨床心理士）に相談できる体制を取っている。 ・教室に質問用紙を設置し、授業での質問があれば受け付けるようにしている。 ・教員室でも図書を閲覧できるようにしており、学生からの質問にも答えるようにしている。 ・長期欠席者には、担当より口頭または電話にて連絡し、面接を行っている。 ・成績不良者には、必要に応じて再試験、面接などを行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38 人 (100%)	0 人 (%)	38 人 (100%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等） 病院（成人）100%			
（就職指導内容） 就職ガイダンス実施（業種の状況説明、履歴書の書き方等）、マナー講座、就職説明			

会（感染症対策のため Web 説明会、クラスでの個別説明実施）
（主な学修成果（資格・検定等）） 2025 年度作業療法士国家試験を 38 名が受験し、34 名が合格（合格率 89%）であった。
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
125 人	1 人	0.8%
(中途退学の主な理由) 進路変更、一身上の理由など。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談と補習の実施。教員間のコミュニケーションにより情報共有(授業中の態度、小テスト結果など)、実際の臨床場面での体験談を話し理学療法士の魅力を伝える。 担任 2 名体制であるため状況に応じ随時面談を実施している。教員のメールアドレスを開示しており、出席不良や成績不良の学生には、学生の下承を得たうえで保護者に連絡をして状況の説明を行っている。ご意見箱の設置や心理カウンセラーも常勤しており、学科教員以外にも相談できる環境がある。株式会社ウイネット「自己発見検査」により「人間関係」「学習支援」などのサポートを行っている。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
介護福祉		社会福祉専門課程	介護福祉学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	98 単位	58 単位	29 単位	11 単位			
			2, 037 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人		67 人	53 人	3 人	6 人	9 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照

卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第 2 号の 3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照
学修支援等
(概要) ・実技の科目においては、専任教員 3 名にて実施している。 ・学科教員が、定期的に全ての学生の面談を行っている。 ・学科の教員に相談できない精神的な問題に対しては、常勤のカウンセラー（臨床心理士）に相談できる体制を取っている。 ・教室に質問用紙を設置し、授業での質問があれば受け付けるようにしている。 ・教員室でも図書を閲覧できるようにしており、学生からの質問にも答えるようにしている。 ・長期欠席者には、担当より口頭または電話にて連絡し、面接を行っている。 ・成績不良者には、必要に応じて再試験、面接などを行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 介護老人福祉施設、介護老人保健施設、障がい者支援施設など			
(就職指導内容) 個別面談を実施し本人の希望を確認している。就職先の調べ方などの情報提供			
(主な学修成果（資格・検定等）) 2025 年介護福祉士国家試験合格率 64%			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
61 人	3 人	5%
(中途退学の主な理由) 進路変更のため。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談と補習の実施。教員間のコミュニケーションにより情報共有（授業中の態度、小テスト結果など）、実際の臨床場面での体験談を話し介護福祉士の魅力を伝える。 担任 2 名体制であるため状況に応じ随時面談を実施している。教員のメールアドレスを開示しており、出席不良や成績不良の学生には、学生の下承を得たうえで保護者に連絡をして状況の説明を行っている。ご意見箱の設置や心理カウンセラーも常勤しており、学科教員以外にも相談できる環境がある。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
作業療法学科	450,000 円	800,000 円	550,000 円	
理学療法学科	450,000 円	800,000 円	550,000 円	
介護福祉学科	200,000 円	500,000 円	500,000 円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校 HP にて公開している。 https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/self_assessment_report2025.pdf		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制） 学校関係者として、関係病院や施設の事務長・技士長、卒業生などを含む学校関係者評価委員会を組織し、それぞれの知見を活かした教育内容・学校運営等について評価を行っている。 評価内容は、教務事務連絡会議、学科長委員長会議などで報告され、次年度以降の改善に取り組んでいる。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人社団和風会 リハビリテーション科 部長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
実習病院 リハビリテーション科技士長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
実習病院 リハビリテーション科技士長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
実習病院 リハビリテーション科技士長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
実習施設 事務長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
実習施設 事務長	2026. 4. 1～2028. 3. 31	病院・施設
大学教員	2026. 4. 1～2028. 3. 31	卒業生
第三者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tama-riha.ac.jp/information/pdf/info/school_related_evaluation_committee2025.pdf		
(備考)		

--

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.tama-riha.ac.jp>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H113320500013
学校名 (〇〇大学 等)	多摩リハビリテーション学院専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 和風会

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		51 人 (31人)	49 人 (27人)	53 人 (32人)
内 訳	第Ⅰ区分	15 人	13 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅱ区分	- 人	11 人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅲ区分	- 人	- 人	
	(うち多子世帯)	(0人)	(-人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0 人	0 人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11 人	- 人	
	区分外（多子世帯）	- 人	15 人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0 人 (0人)
合計（年間）				53 人 (32人)
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	- 人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	人	人
計	- 人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	- 人	0 人	- 人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0 人	0 人	0 人
GPA等が下位4分の1	- 人	- 人	0 人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0 人	0 人	0 人
計	- 人	- 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。